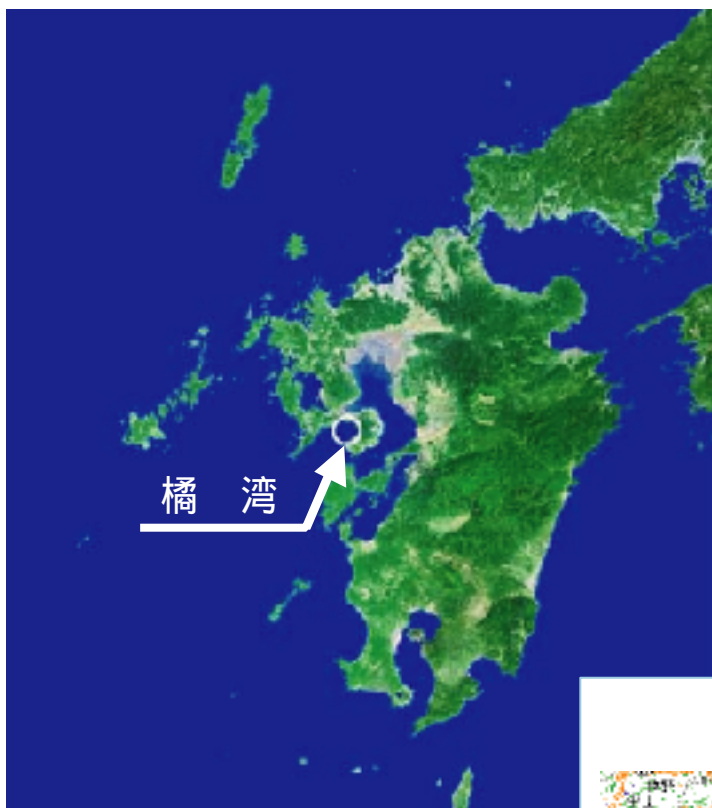


海域の概要

本湾は、雲仙地溝帯の西部に存在する湾で、南西部に開いています。湾内ではクルマエビやホシガレイが養殖されています。



Specification

諸元

湾口幅：11.59 km

面積：130.92 km²

湾内最大水深：3.9 m

湾口最大水深：3.9 m

閉鎖度指標：0.99

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

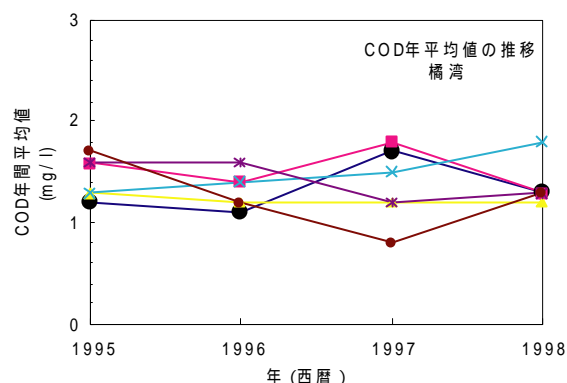
長崎県南高来郡南串山町国崎と北高来郡飯盛町2505 南端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

橘湾は、東シナ海に面し、西九州海洋型気候区に属し、対馬暖流の影響を受けて温暖な気候になっています。雲仙岳から千々石川・金浜川などが流入しています。

比較的開放的な湾で、水質は全般に良好となっています。環境基準点は主に沿岸の漁港付近に設定されており、そのCOD年平均値は1～2mg/l程度で推移しています。



自然

橘湾は、「千々石湾」とも呼ばれる千々石カルデラにより形成された湾です。千々石海岸や野田浜海岸、土瀬戸海岸などの砂浜と背後の松林が美しい海岸線と海食崖の続く景観が美しい湾で、千々石海岸は「日本自然百選」、「日本白砂青松百選」にも選ばれています。

温暖な気候を反映して、クワ科の亜熱帯高木の「アコウ」の群落があり、口之津町の町木になっています。



千々石海岸

文化歴史

その昔、先住民は、切り立った断崖に大波がうち寄せる景観を「比遅波（ひぢは）」と表現していました。「千々石」の名は、そういう海から見た景観に由来します。

千々石海岸の松は、塩害を防ぐために江戸時代の初期に藩主松倉重成が堤防を築き、松を植えたのが始まりで、今も防風林、防潮林として、また町民の憩い場所として千々石町民に親しまれています。

千々石海岸はその昔、雲仙を訪れた外国人客で栄え、今も多くの海水浴客で賑わう県内有数のビーチです。最近では海水浴だけでなく、日光浴や散策、ドライブにと気軽に年間を通じて利用されています。また、10月にはこの砂浜を利用した「サンドアートフェスティバル」(砂の造形大会)が行われ、2kmの砂浜に多くの芸術的作品が現れます。

産業

橘湾では、イワシのまき網漁業、底引き網漁業を中心に沿岸漁業が行われていますが、最近ではブリ類を主とする養殖業が盛んです。

湾奥には小浜温泉があり、また、日本で最初に国立公園に指定された雲仙温泉に近いので、小浜町の主な産業は観光となっています。

橘湾内にある橘港は、古くから天然の良港として栄え、昭和40年には重要港湾に指定されて、現在では本県南部の工業集積拠点として重要な役割を果たしています。

また、「橘湾の恵まれた自然を背景に、「海」をテーマとする遊びと体験学習の拠点施設」として、長崎ペンギン水族館が、橘湾海浜公園(仮称)の中にオープンしました。



長崎ペンギン水族館